



東京の会通信

No.311

2023年11月1日号
(隔月1日発行)

発行：骨髄バンクを支援する
東京の会
〒101-0031 東京都千代田区
東神田1-3-4 KTビル3階
TEL：03-3866-8171
(FAX兼用)



<http://www.marrow.or.jp/tokyo/>
e-mail:marrow_tokyo@yahoo.co.jp
定価 100 円



しながわ宿場まつりに 出店しました



9月17日（日）に、4年ぶりの「しながわ宿場まつり」が開催されました。東海道五十三次で日本橋から数えて一番目の宿場町「品川宿」に江戸時代から残る約2kmの道でパレードや沿道の出店、そして終点の品川寺（ほんせんじ）では山伏の火渡り荒行が行われる大きなイベントです。久しぶりの出店で以前と状況が変わった中、東京港南マリンロータリークラブの方たちと協力してぶどうやクッキー、パンなどを販売しました。

「しながわ宿場まつり」4年ぶりに出店し

東京の会を支援！

東京港南マリンロータリークラブ 毛塚 久恵

暑さが残る9月の三連休の9月17日（日）に、4年ぶりに品川宿旧東海道にて「しながわ宿場まつり」が開催されました。北品川の八ツ山橋から品川寺（ほんせんじ）（青物横丁駅）までの交通安全パレードと品川寺の火渡りを見物する多くの来場者で賑わいます。中でも、品川区長と公募から選ばれた区民が江戸時代の恰好をして練り歩くパレードと、山伏達の火渡りは迫力があり見応えがあります。

東京港南マリンロータリークラブはクラブが合併する前の東京マリンロータリークラブの時から、こ

れまで20年以上に亘り骨髄バンクを支援してきました。その活動の1つとして多くの人が集う「しながわ宿場まつり」でチャリティーバザーを出店し、骨髄バンクのPRとバザーの売上金を東京の会に寄付させて頂いています。

4年の間にクラブ内の人事も変わり、お祭りの段取りが分かる会員が少なかったのですが、東京の会の若木さんと元会員が準備からご協力くださり無事に出店することができました。

当日は朝8時半から品川寺横の民家の駐車場をお借りして TENT を組み、若木さんが仕入れてくださった目玉商品の巨峰とシャインマスカット（50セット）、クッキー、パン、有明産の海苔、パスタ、羊羹、そしてエナジードリンクと様々な商品を販売しました。衛生上の観点から食品（試食含む）の提供が実行委員会から規制されていたので苦戦が予想されていましたが、お祭りが終わる午後3時には残り3セットを残してほぼ売り切ることができました。その他の商品も売れ行き好調で最後は黒字で終わることができました。

新型コロナウイルスの流行で20年以上も続いている活動ができずもどかしい思いでしたが、今年は心機一転、東京の会の皆さんとお祭りの実行委員会のご理解



日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー (令和5年9月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	548,691	70,491	67,448
8-9月登録分	5,896	769	378
8-9月抹消数	4,545	603	—
実質登録増	1,351	166	—

患者とドナー登録・適合状況(9月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計)	939,930人
ドナー登録抹消者数(累計)	391,239人
HLA適合報告ドナー数(累計)	375,585人
実質登録患者実数(現在)	1,632人(国内1,158人)
HLA適合患者数(累計)	53,689人(患者累計数の79.6%)
非血縁移植実施数	27,956例(8-9月実施172例)

とご協力を得て再び活動できたことに感謝の気持ちでいっぱいです。これからも継続して東京の会、骨髓バンク、こうのとりのマリーン基金を支援できるよう努めてまいりますので、来年もバザー出店の際にはぜひ品川に足をお運びください。

巨峰とシャインマスカットを完売！

旧東海道、北品川から青物横丁沿道での「しながわ宿場まつり」が4年振りに開催され、今回も東京港南マリーンロータリークラブのご協力により、品川寺前にブースを出店しました。

準備段階では、綿アメやポップコーンの販売などを検討していましたが、コロナ感染拡大の影響で食品は販売不可となり、品川運輸の毛塚久恵さんやロータリーの竹内さん、会長他の皆さんと何を販売するか頭を悩ませました。2018年に山梨勝沼の巨峰を仕入れて販売したのを思い出し、今年は巨峰とシャインマスカットをセットで販売する意見が出てぶどう50セットと、三瓶さん所属のひまわり作業所のクッキー、桑田さんご主人の経営するパン屋さんからデニッシュなどを仕入れて販売することになりました。その他マリーンのメンバーが持ち込んだバザー品も販売することとなりました。

巨峰とシャインマスカットは前日の土曜日に山梨勝沼に朝採れを仕入れに行き、車の荷台いっぱいに詰め込んで、当日会場へ運びました。

過去のお祭りでは沿道いっぱいに出店が並び大勢の人出があったのですが、今年は久々の開催のためか出店も近くには野菜の詰め放題他数店しかなく、人通りもまばらで売れ行きが芳しくありません。東京の会から8名、ロータリーからも10名弱の方々が声を哽らして沿道に呼びかけます。昼過ぎにパレードがあり品川

寺の火渡りが始まると人出も多くなり、何とか仕入れ品が売れていきました。15時過ぎの終了時には、ぶどうが数セットとクッキー・デニッシュも少し売れ残りましたが、メンバーが最後に買い取り完売することができました。

ロータリークラブの皆さんから、東京の会の協力に感謝する、また来年も同様に活動したいとお言葉をいただきました。来年も準備を早めに行いしながわ宿場まつりに参加し、骨髓バンクの普及啓発と寄付の呼びかけをしたいと思います。（若木 換）

久々の啓発活動で人とのつながりを実感！

実に4年ぶりの開催であり、地域の皆様、そして東京の会にとっても待ち侘びた開催です。東京の会は、東京港南マリーンロータリークラブの方たちと一緒に、代表代理自ら山梨より産地直送で仕入れた巨峰とシャインマスカット、ひまわり作業所のクッキー、バザー品、のり、冷たい飲み物、天然酵母を使用したパンの販売を行いました。

当日は9月末というのにまだ35度超えの残暑厳しい中ということもあり、冷たい飲み物は次から次へと売れ、まとめてお買い求めになる方も。パンに至っては甘いものより塩気がある方が売れ行きは好調でした。たくさんの方に足を止めて頂き、チャリティにご協力を頂きました。また、野菜詰め放題のイベントには品川区立東海中学校の生徒たちがボランティア参加していました。恒例行事が再開されると、こうして地域との繋がりを感じる事ができます。骨髓バンクを広く市民に理解してもらい、骨髓提供希望者の登録を推進するという東京の会の活動を久々に実践する事ができ、原点に還った気がしました。私は午前中のみのお手伝いでしたが、価値ある半日でした。（桑田 久美子）

雨の駒沢公園で骨髓バンクのタスキリレー

10月9日、駒沢オリンピック公園陸上競技場と周辺のランニングコースで、2023グリーンリボンランニングフェスティバルが開催されました。本大会は、臓器移植を受けた方をはじめ、障がいのある方、ない方が共に参加し、走る喜びを分かち合うイベントで、今回で16回目となります。

全国骨髓バンク推進連絡協議会も協力団体として参加し、代表ランナーを出すとともに骨髓バンクの普及啓発活動を行っています。今回はフルマラソンの距離42.195kmをリレーでつなぐ競技に、全国協議会から3チームがエントリーしました。東京の会からは代表代理の若木さんが、全国から集った混成チーム「骨髓バンクをよろしく」のメンバーとして走り、ボランティア・応援団として4名が参加しました。

当日は朝から雨が降り続き、気温は最高で15℃前後と冷え込むあいにくの天気、ドナーとドナーファミ

リーの方々に感謝の気持ちを込めて参加者で風船を空に放つ「バルーンセレモニー」は中止となりました。それでも約3100人のランナーが、10km、5km、ファミリーラン、ハーフマラソン、リレーなどの競技に参加し、陸上競技場と公園内の周回コースを走りました。

骨髓バンクの3チームは、リレーのタスキと骨髓バンクのタスキをかけて42.195kmをつなぎ、見事に完走しました。最後のランナーがゴールする手前から、チーム全員が一緒に走り感動のゴール！ゴール後は記念撮影をして健闘を称えあいました。

ランナーとして力走した若木さん、応援団の皆さん、お疲れさまでした。



事務局長の光江さん、今後は熊本から参加

東京の会の若手ホープ、事務局長の光江健太郎さんが、ご両親の近くで暮らすという人生の選択をし、転職して熊本へ引っ越すことになりました。

東京を離れてもリモートで東京の会の事務局長は続けていってくれるとのことで、9月27日に東京の会メンバー14名が集まって、新宿サザンタワーのイタリアン「ピラ・ピアンキ」で、「熊本でも元気で頑張っ！」と光江さんの激励会を開きました。

光江さんは、毎月定例会が終わるとすぐに議事録を作ってメンバーリストで送ってくれることから分かるように、細かい所まで配慮の行き届いた仕事が出来人です。私が光江さんに一番助けられたことは、献血ルームの活動に参加する人が減って、なかなか成果が上がらなくなって困っていた時に、登録会活動の推進役を買って出てくれたことでした。

説明員に成り立てで初めて参加する人でも、久しぶりに参加する人でも困らないように、分かりやすい献血ルームでの登録会のマニュアルを作ってくれたこと、「調整さん」というアプリを使って参加者を募集するようにして、「参加します！」と手を挙げ易い方法を取り入れたこと、献血ルーム入口で「登録会をやっています」とわかるように来場者に配るチラシを作ってくれたこと、これら光江さんのおかげで献血ルームでの

活動がスムーズに回るようになりました。

実際の活動の場には今までのように一緒に参加出来なくなるのは本当に残念ですが、これからは熊本から力を貸してもらえんと思って、時々仕事で上京する際に東京の会に顔を出してくれることを楽しみにしたいと思います。

激励会では光江さんが順繰りに席を移動してみんなと歓談した後、みんなから光江さんへの「質問タイム」になりました。「熊本へ行ってからやりたいことは？」「光江さんは本当に独りなんですか？」と飛んできた質問に、「向こうに行ってから彼女を見つけます！」と笑顔で答えた光江さんでした。

みんなからプレゼントした記念品はAmazonのギフトカード。「これが欲しかったんです」と光江さんが言った言葉から、「こういうのが今時のギフトなのかー」と私は知りました。この的確な記念品を選んだのは福永さんと石崎友子さん、さすがです！そのカードの包装にライオンやキリンがポップアップする可愛いギフトボックスを選んだのは石崎保夫さんで、東京の会の暖かな雰囲気がそのまま光江さんの手に渡ったように感じました。

光江さん、東京を離れてもずっと頼りにしてます、これからもよろしくね！お元気で！（松下 倫子）

～光江さんより皆さんへ～

送別会を開いて頂きありがとうございました。

2013年7月に白血病を罹患し、2014年に再発により弟からの末梢血幹細胞移植を受けて約9年が経ちました。白血病の罹患や移植経験を通じて2018年3月に東京の会と出会いボランティア活動に参加させていただきました。

「おりおり」や骨髓バンクドナー登録説明員の資格を取得しSNOWBANK、献血ルームなどでのドナー登録活動への参加、さらにグリーンリボンランニングフェスティバルや桃源郷マラソンへの参加、品川宿場祭り、ピアノ三重奏コンサート「響」、東京マラソン、箱根駅伝などのイベントでの啓発活動に参加させていただきました。この活動を通じて沢山の方とお会いでき、様々な方との支え合いや交流を通じて微力ながらも社会貢献、地域社会づくりに参加できたと思っています。

10月に両親、弟が住む熊本へ帰ることを今年決断致しました。両親、弟の近くに住み、これから両親や家のことなどサポートしていきたいと考えております。

コロナ禍を通じてリモート活動が可能になりました。東京の会としては籍を残し、リモートで出来ることを今後続けていきたいと思っています。また、仕事は首都圏の案件を担当します。年に数回、東京に行く機会があると思っています。その時、タイミングが合えば活動に参加したいと考えております。

熊本でもボランティア活動を続けていきたいと思っています。新たな出会い、熊本への社会貢献、地域社会づくりに少しでも貢献していきたいと考えております。これまでありがとうございました。そして、これからもよろしくお願い致します。（光江健太郎）

心のこもったご寄付ありがとうございました。(2023.8.16～10.15)

安藤澄子さん 2,000円／保居憲昭さん 15,000円／水野暁子さん 2,000円／宮坂祐輔さん 7,000円
小松崎辰哉さん 30,000円／金子美智代さん 15,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。

日本青年会議所 第72回全国大会でドナー登録活動

10月7日、日本青年会議所の第72回全国大会が32年振りに東京で開催され、会場の東京ビッグサイトには、各種催しに全国の会員やその家族など2万人を超える方が訪れました。この会場で主催の東京JCが献血バスを誘致し、献血併行ドナー登録を実施しました。全国協議会では日赤の隣にブースを出し、日赤のブースで献血のため血圧を測る場面でドナー登録を呼び掛けました。献血バスまでの動線が長く案内が難しかったですが、17名の30歳代の方にドナー登録をしていただきました。しかし献血数は目標を下回ったようで、JCメンバー自身の献血への協力度合いが低かったようです。献血バスを誘致した責任を重く受け止め、主催のJCメンバーが自ら積極的に献血をする姿勢の必要性を感じました。参加した三土明笑さんからの報告です。



10月7日、東京ビッグサイトで開かれたJC全国大会「東京未来フェス2023」に相乗りして献血併行型登録会があり、説明員として出動しました。説明員4名は午前と午後とで役割交代しながら2人ずつ、日赤ブースの献血受付（血圧測定）のそばで登録希望者に声掛けする役と、献血バスの横で説明する役とに分かれて活動をおこないました。日赤と全国協議会のブースは至近で便利な反面、献血バスは展示会場の外に配置され、採血のため献血バスまでの道程が異常に長く不便でした。ただしこの長さがメリットにもなりました。日赤が受付を済ませた献血希望者をバスまで案内する役を我々に振ってくれたおかげで、受付の際は献血だけ希望した人に対しても道案内の途上で「オプションとして骨髄バンクのドナー登録もすぐできるのですが」と誘いをかけるチャンスがあり、往路の途上で「じゃあ、ついでにそれも」と言っていた方にドナー登録してもらえました。

(三土明笑)

ピアノ三重奏コンサート「響」求道会館で開催

前号でも掲載いたしましたが、『ピアノ三重奏コンサート 響』についてご案内いたします。

昨年、コロナ禍以降初めて3年ぶりに開催され大好評に終わりました。

今年も開催が決定し、まだまだお席に余裕があります。皆様お誘いあわせの上ぜひふるってご参加ください。

【日 時】2023年11月23日（木・祝）開演 15時～

【場 所】求道会館（文京区本郷6-20）

南北線「東大前」駅 徒歩5分 大江戸線・丸の内線「本郷三丁目」駅 徒歩15分

【出 演】三戸素子（ヴァイオリン）・小澤洋介（チェロ）・高田匡隆（ピアノ）

【演奏曲】フ ラ ン ク：前奏曲、フーガと変奏曲 作品18（ピアノ独奏）

カ サ ド：親愛な言葉（チェロ&ピアノ）

クライスラー：愛の喜び（ヴァイオリン&ピアノ）

シューベルト：ピアノ三重奏曲第1番 変ロ長調 作品99

【入場料】3,000円



コンサート申込み

【お申込】下記①もしくは②の方法でお申込みください。

①<<https://x.gd/DYqdc>>（二次元コードからアクセス可）よりお申込みフォームから送信

*送信後、『この度はお申込みいただきましてありがとうございます』と表示されれば申し込み完了です。

② 東京の会メールアドレス marrow_tokyo@yahoo.co.jp 宛に、件名を『コンサート申し込み』とし、

本文に『お名前』『電話番号』『希望人数』を記入して送信

◆お申込み後、ご登録いただいたメールに、数日以内に登録完了のメールをお送りいたします。

◆代金は、当日入口受付にてお支払いください。つり銭の無いようご協力お願いいたします。

◆キャンセルの場合は、事前に必ず上記東京の会メールアドレスまでお知らせください。

骨髄ドナー体験を振り返り、今、思う事

高崎 尚子

私が骨髄ドナーとなったのは、今から23年前2000年の事です。当時、私は看護師4年目で病棟勤務をしていました。ある日、骨髄バンクからの適合通知が届き、私のドナーコーディネートが開始されました。私の気持ちは迷うことなく決まっていた。すぐにでも提供したい!と。

私が看護師になろうと決めたのは高校生の時です。動機は白血病で亡くなった2人の少女の存在が大きいです。1人は小学生の時に読んで「あつこの日記」。闘病日記を書いた植木亜紀子ちゃんの優しさや頑張りから、私の生き方や考え方に大きく影響を受けました。そしてもう1人は、高校生の時にテレビで放映されていた特集番組やCMに起用されていた中堀由希子さん。とても綺麗で魅力的な女性で、強く印象に残っています。私が骨髄バンクを知るきっかけとなった方です。

看護師としてのスタートは、小児病院の骨髄移植も行っている小児がん病棟でした。知識や技術、経験、何もかもが未熟で苦労や辛いことの連続でした。何度も逃げ出したくなりました。しかし、志願して配属された病棟でしたし、何より骨髄移植に携われている事に誇りも感じていたので、頑張ることができました。

私が骨髄バンクのドナー登録をしたのは、そこで働き始めてしばらくの頃でした。どこかで骨髄移植を待つ人の助けになりたい、という思いからの登録でした。高校生の頃から漠然と決めていたドナー登録を実現できて、達成感というか満足感を覚えたような記憶があります。

小児病院でのかけがえのない経験や出会いがあったからこそ、今も看護師を続け、骨髄バンクのボランティアに関わることが出来ています。もう20年以上も前の事ですが、患児やご家族の事は、今でも時々思い出すことがあります。

その後、成人看護の経験を求めて転職をしました。そこは骨髄移植の提携病院でしたので骨髄ドナーの方の入院もありました。何人かのドナーさんに関わるうちに、「いつか私もドナーになれば」という思いが募っていきました。そんな、ある日の適合通知でした。

まず両親に報告、そして病棟の所属長に相談しました。職場は骨髄移植への理解や協力体制が十分にあり、骨髄提供での通院や入院にも快く送り出し、応援してくれました。とてもありがたかったです。

大変だったのは、両親に骨髄提供をする事の理解と同意を得る事です。初め、両親は私の骨髄提供に反対でした。理由は、全身麻酔への不安が大きかったようです。「本人に提

供の意思があっても、ご家族の同意がないと提供できない」という事が、本当に難題な事だと実感しました。その後、コーディネーターさんからの親身で丁寧な説明があったおかげで、両親は納得し、提供同意書に捺印してくれました。当時、私は神奈川県、両親は山口県と離れて住んでおり、それぞれにコーディネーターが付いて調整して頂きました。コーディネーターの方は、小さな疑問や不安にもすぐに対応して下さい、本当に頼もしい存在でした。

骨髄提供での入院は、私にとって初めての入院、手術でした。骨髄採取前日に入院し、術後2日での退院だったと思います。いつもと逆の患者の立場での入院生活は、初めこそ少しワクワクしましたが、やはり気ままに過ごせる自分の家が一番だな、とすぐに思いました。手術室への入室も初めてで、勉強になりました。採取後は麻酔の影響もあり、微熱と気分不快がありましたが、すぐに回復しました。腰の痛みも少しはあったと記憶していますが、生活に支障が出るほどではなく、職場への復帰も1週間ほどでした。退院当日に、骨髄提供したことのご褒美と退院祝いとして、母と伯母が美味しいステーキ肉をご馳走してくれた事を鮮明に覚えています。本当においしかったです。

入院・骨髄採取で体験した事、感じた不安や心配事、医療者から受けた優しさなどは、仕事に復帰してから色々な面で活かせるように思います。健康な自分だからこそ、骨髄ドナーとなったからこそ体験できた、かけがえのない貴重な体験となりました。

そして骨髄提供から20年以上が経過した現在、骨髄バンクの登録説明員としてボランティア活動をさせていただくようになりました。「もしかしたら、明日、あなたが、親が、兄弟が、親戚が、親友が、恋人が、夫・妻が、我が子が、白血病を発症して骨髄移植でしか命をつなげない、そんなことが起こるかもしれない」「骨髄移植を待つ人は、あなたの知らない誰かではなく、もしかしたら、あなたに繋がりがあの人、将来出会う運命の人かもしれない」そんな風に、他人事ではなく、自分事として、1人でも多くの人に骨髄移植について知ってほしい、考えてほしい、そしてドナー登録に繋げてほしい、そんな風に考えながら、活動させていただいています。

1人でも多くの方に、命が繋がっていくことを願っています。



編集者 雑記

▼少し前になりますが、健康保険組合連合会が2020年度「新生物（悪性及び良性・その他の新生物）の動向に関する調査を公表しました。前年度に比べて白血病の入院医療費が大きく増加したと報告されています。健保の診療報酬明細書（レセプト）を集計した結果、2020年度の疾病医療費総額は3兆491億円で、そのうち新生物11疾患の医療費が占める割合は12.7%（3,862億円）でした。対前年度伸び率は、医療費全体では5.9%減でしたが、新生物では0.5%増となっています。内訳をみると、医科入院の2.6%減少に対して、医科入院外は2.7%増加しており、コロナ禍や近年の外来化学療法増加の影響が表れていると見られます。

▼医療費及び構成割合を見ると、医科入院の医療費総額7,786億円のうち新生物医療費が占める割合は20.4%（1,590億円）。医科入院外では医療費総額2兆2,705億円のうち新生物医療費が占める割合は10.0%（2,272億円）でした。対前年度の伸び率では、白血病が医科入院で10.0%、医科入院外で6.1%と大きく増加しました。受診者1人当たりの医療費は、医科入院では白血病が964万3,312円と最も高く、次いで悪性リンパ腫の646万8,552円となっています。医科入院外で

は白血病が167万2,198円と圧倒的に高く、次いで乳房の悪性新生物が64万9,580円となっています。

▼医療費増大を抑制するためのひとつの手法となる、リフィル処方箋はご存じでしょうか？リフィル処方箋とは処方箋を反復利用できる仕組みであり、先進諸国では広く導入されています。主治医が患者さんに対して症状が安定していると判断した場合には、発行した処方箋を2回・3回と反復利用できます。薬を処方されるたびに毎回おこなっていた医師への診察の回数を減らすことで、患者さんの負担も軽減されますし医師も診療回数を減らすことで手数が省け医療費の削減につながります。しかも高血圧症、糖尿病、脂質異常および高尿酸血症などの患者のうちおよそ8割が1年間処方変更がないことが報告されています。これらの患者がリフィル処方箋に適する対象となります。利用するには患者側からの働きかけが重要です。

▼出生数が80万人を割りました。2022年度の出生数は79万9,728人（対前年5.1%減）、死亡数は158万2,033人（同8.9%増）で、出生数から死亡数を引いた自然増減数は△78万2,305人と過去最大の減少となりました。国民皆保険を維持するためにも、色々な仕組みで医療費の削減や方法の見直しが必要です。まずは健康な体づくりで医者に掛からないことが重要ですが、リフィル処方箋の活用やジェネリック医薬品の利用など、自分たちで削減できる医療費について配慮していく必要があるでしょう。

(A)

東京の会 「11月、12月定例会」 のお知らせ

11月18日(土) 午後5時30分より
12月16日(土) 午前11時00分より

(終了後に場所を変えてランチ忘年会を開催します！)

会場：こくみん共済coop東京会館
(旧：全労済東京会館) 3階会議室

※JR新宿駅西口下車7分（新宿区西新宿7-20-8）

※地下鉄丸の内線新宿駅下車1番出口徒歩2分

青梅街道新宿警察署向かい・「キャン☆ドウ」角入り右側

※1月定例会予定・1月20日(土)午後5時30分より

定例会の開催については新型コロナウィルスの感染拡大状況を考慮し、オンライン開催も取り入れて臨機応変に対応して参ります。

1月会報発送 「おりおり」のお知らせ

日時：2024年1月7日（日）14時00分より

※発送作業は会報が発行される奇数月のみとなります。

※最新情報を東京の会ホームページ等でご確認の上、
お越しください。

場所：全国協議会事務所（千代田区東神田1-3-4 KTビル3階）

交通：都営新宿線「馬喰横山」駅 徒歩5分

都営浅草線「東日本橋」駅 徒歩7分

東京メトロ日比谷線「小伝馬町」駅 徒歩7分

JR総武快速線「馬喰町」駅 徒歩5分

※3月「おりおり」予定 2024年3月3日（日）14時より

※今お読みになっている「東京の会通信」を約500部折って封入し発送します。どなたでもご参加いただけますが、なるべくマスク着用の上、患者さんや元患者さん、持病のある方やご年配者など、感染リスクの高い方はご無理のないようお願い致します。なお、状況により発送作業を中止する場合は、メーリングリストやホームページ等でお知らせしますので、ご確認ください。

郵便振替口座番号

00100-1-555195

他銀行から振込みの場合 ゆうちょ銀行(9900) / ○一八支店(018) 普通口座No.4180512

加入者名義

骨髄バンクを支援する東京の会